

コスモス 11月号

第69巻 第11号

◆宮柊二カレンダー(32) 十一月の歌

秋ふかむひかりは差して吾がめぐり机の塵の
この昼を静か
歌集『多く夜の歌』

「自方冬至短至」と題する二十九首の八首目。初出は「短歌」昭和二十九年二月号。前後の歌から、机は当時勤務していた富士製鉄の執務用の机と思われる。昼の休憩時で他の社員たちは出払っていたのであろう。人の動きの乏しさゆえに、晩秋の昼の光に「机の塵」が浮かびあがって来るのだが、塵の動く気配はない。静謐感のみが漂っているのである。そして、机上の塵を見つめている作者の穏やかな心象もまた自ずから伝わってくる。職場の極めて微細な情景を描写しても、柊二の眼差しは鋭い。

(鈴木 竹志)